

菅波 茂

5月2日の夜から3日にかけて大型サイクロン「ナルギス」が、ミャンマー連邦中南部を直撃した。政府筋の発表によると死者・行方不明者数は6万人以上である。被災者数は100万人に上ると推定されている。

60年に1度の大災害である。強烈な雨と風で街

路樹は倒れ、家の屋根は吹き飛び、甚大な社会インフラ被害が発生した。ヤンゴン全域で停電し、電話は不通になった。医療機関は開いているが、一時的にバス料金は2倍に高騰し、路線数が半分に減っている。アクセスが悪く、通えない。政府機関は資金、医薬品、ブルーシート、毛布、夏服、インスタント食品などが必要だと発表した。被災者は親類宅や僧院（パゴダ）に身を寄せている。

AMDAは、10日からヤンゴン管区で医療支援活動を開始した。11日か

ら、ミャンマー人スタッフで構成されたAMDA医療チーム（医師3人・補助医師1人・看護師1人・調整員1人・補助4人）が、現地保健当局の2人と協力し、巡回診療を行っている。1日あたりの平均患者数は150人前後。飲み水不足のために、乳幼児の下痢などの消化器疾患も見られる。加えて、不安などの心的外傷の患者も目立ってきた。

巡回診療の医療スタッフは、中部乾燥地帯（マウンダーレ管区メッティラ県、ニャンウー県など）で、95年から実施している母子保健プロジェクトに従事していた。ミャンマー政府は海外からの救援医療チームの受け入れに難色を示しているが、AMDAは12年間の活動に対する政府の信頼と、ローカル医療スタッフの活用により、サイクロン被災者救援医療活動を開始することができた。

「緊急人道支援とともに民主化の推進を」とは某新聞社の社説である。災害のどよめきにまぎれ

「連帯感の推進を」——緊急支援活動——ミャンマー・サイクロン

て政治活動のメッセージである。ミャンマー政府の置かれている国際社会での立場は微妙である。英国により植民地化された60年以上に及ぶ歴史、民主主義が成立する社会的条件、脱貧困と民主主義との優先順位、民族の自決を原則とする近代国家における多民族社会、アウンサンスーチーさんの夫が英国人であること——などの難解な多次元連立方程式を国際社会は解く必要がある。緊急人道支援時のメッセージは、いかに多くの被災者の救援に役立つかが肝要である。災害時に「民主化の推進」のメッセージは、マイナス以外の何物でもない。多次元連立方程式への回答を不能にするだけである。

援助を受ける側にもプライドがある。サイクロン被災者救援の最大のメッセージは「連帯感」である。ミャンマー人には親日家が多い。日本人にも親ミャンマー家が多い。世界のどの国よりも日本人とミャンマー人の連帯感が高いと言える。

現在の日本にとって、国益とは「親日」である。日本政府は国際社会で、サイクロン被災者救援活動のイニシアチブを取るべきである。なぜなら、両国民に連帯感が存在するからである。もし、日本政府が欧米に追従してイニシアチブが取れないならば、NGOに委任するべきである。90年の湾岸戦争の時に「顔が見えない日本」と言われた屈辱を繰り返してはいけない。顔とはメッセージである。「緊急人道支援とともに民主化の推進を」ではなく「緊急人道支援とともに連帯感の推進を」が多次元連立方程式の答えである。

AMDAグループは、現在のサイクロン被災者救援活動を実施しながらも、ミャンマーにおける中部乾燥地域事業や北シヤン州コーカン特別地区における事業の継続も忘れてはいない。なぜなら、両者ともに日本とミャンマーの「連帯感の推進」に不可欠であると確信しているからだ。（AMDAグループ代表）